



# 「9条まつり」多彩に



どうれつしや合唱団

多様な催しが行われました。

ました。

しんぶん赤旗  
2010年11月14日

## 対談・寄席・映画など催し

九条の会東京連絡会などで行われる実行委員会主催の「東京9条まつり」(生きいき憲法)が13日、大田区産業プラザを全館借り切って開催され、3000人を超える参加者が詰めかけました。

都丸哲也実行委員長 「生きいき憲法」とが「東京の9条の会」がさらに発展するための答えを探す楽しめよう」とあいつつしました。

脚本家のジェームス三木氏と東京大教授の小森陽一氏が対談。明治時代の日本が戦争の道へ進んだ節目に生きてた俳人正岡子規と夏目漱石との友情などを語り、「日常を平和に生きるには9条があるからこそ」と訴えました。

著名人の講演会、9条グッズや書籍をおいた9条の会の出店、九条寄席、合唱、映画上映など多彩な催しが終日行われました。

「生きいき憲法」と題した特別スピーチで、聖路加国際病院の

日野原重明理事長は「武器を持っている限り戦争はなくならない。命を奪う武器ではなく、人間を育てることを大切にしよう」と話し、大きな拍手に包まれました。

世田谷代田9条の会で活動する女性(51)は「北朝鮮や中国脅威論が言われていますが、歴史を学び外交で解決していくべきだと思います。憲法9条を守りたい思いを地道に続けていきま



「節目の年に歴史を通して今をみる」と題する、脚本家のジェームス三木氏と東京大学大学院教授の小森陽一氏の対談は、息の合ったものでした。ジェームス三木氏は、愛媛県東温市にある「坊ちゃん劇場」の名誉館長

で、2006年にミュージカル「坊ちゃん」、今年6月「正岡子規—明治を駆け抜けた男たち」を上演。小森陽一氏は、日清戦争から日本の戦争の歴史を問いながら憲法9条を考えるという内容でした。結核に侵された正岡子規を、松山で教員をしていた漱石が、感染の危険を顧みず暖かく迎え入れたことや、ロンドンからの漱石の手紙を読んで、子規が脊椎カリエスの痛みを耐えながら「ビヤホール、マントヒヒ、郵便ポスト、公衆電話を見たい」と書いていることなどを紹介し、2人の友情について語った。最後に、故井上ひさし氏が、「平和=日常」と語っていたこと、文化は価値観を共有することであり、人間が文化を大切にするのは、憲法九条の思想であると訴えました。

私は、竜馬伝の大政奉還からまだ143年、国権の発動たる日清戦争から116年しか経っていないことを改めて思い、対談の中で話された「歴史の一番大切なところは隠されている。文字に残されているものを読みこみ、総合的に物を見ること」を大切にしていきたいと思えます。 小澤 清子 (代田5丁目)

ビッグ対談 ジェームス三木×小森陽一を聴く

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、  
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすみましょう ～  
+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

## 東京9条まつりに参加して

「東アジアと憲法9条」と題した高橋哲哉先生（東京大学教授・哲学）の講演を聞きました。

現在、尖閣諸島での中国漁船の衝突の問題で、反中国感情が大きくなり、「日本を核武装して中国に対抗すべきだ」（石原・都知事）との意見も堂々と論じられる中、きちんと歴史を見据え、冷静に対応すべきだとの先生の考えに私も同感です。

配られた資料の中に、清沢冽（きよし）の「暗黒日記」の1945年元旦の記事がありました。少し長いですが、ご紹介します。  
（\*岩波文庫・青178-1）

「日本国民は、今、初めて「戦争」を経験している。戦争は文化の母だとか、「百年戦争」だとか言って戦争を賛美してきたのは長いことだった。・・・当分は戦争を嫌う気持ちが起ろうから、その間に正しい教育をしなければならぬ。それから婦人の地位を上げることも必要だ。・・・日本には自分の立場しかない。この心的態度を変える教育をしなければ、日本は断じて世界一等国となることはできぬ。・・・いままでのように、蛮力が国家を偉大にするというような考えを捨て、明智のみがこの国を救うものであることをこの国民が覚るようにより、「仇討ち思想」が、国民の再起の動力になるようではこの国民に見込みはない。」

清沢さんは、生きていたら、戦争の廃絶のために残りの人生を使うと決めていたそうですが、残念ながら、生きて戦後を迎えることはできなかったそうです。

でも、この思いは憲法9条に結実しています。微力ですが、私も同じ思いで、九条の会を続けていきたい。この間の伊藤千尋さんのお話にあった活憲を実践していきたいです。  
萱野 幸子（代田4丁目）

## 基地のない国を

マスメディアでの報道はあまり目立ちませんでしたが、12月2日に私たち芸能文化関係者は、(社)日本芸能実演家団体協議会が提起した「国の文化予算を0.12%から0.5%へ」という国会請願署名に寄せられた60万筆を超える国民の声を携えて、国会の議員会館を回り、そして集いを開きました。もともとは、今年の事業仕分けで文化予算が費用対効果で問題ありとされ、削減されたことに端を発します。オーケストラ、劇団などの芸術団体への助成は約5億円削減され、子どものための文化事業も削減されました。国の財政危機とはいえ、今のこの国で文化芸術の果たすべき役割の大きさが言われる中で、国民の鑑賞機会を奪い、また芸術創造の場を奪うことは、時代に逆行するものです。今回の署名運動の特徴は、芸能関係団体、芸能実演家自身が署名運動に立ち上がったということです。落語家は寄席で、オーケストラのコンサートでは指揮者が、それぞれ署名を訴え、また、野村萬さんや中村紘子さんたちが街頭署名を行ったのです。芸団協会長の野村萬さんは、何がそうさせたのかと聞かれて、「私たち芸能の世界には絶対のない費用対効果という言葉が私を駆り立てた」と言われました。世の中を見れば、医療、教育、福祉、そして文化と今まで市場原理主義とは無縁であった世界に、効率主義が持ち込まれています。実は、それとは裏腹なのが軍事予算です。もっとも事業仕分けされて良い無駄な予算が5兆円もあり、米軍に対する思いやり予算は、文化庁予算（約1000億円）の倍であるという事実は、もっともっと知らせていくべきでしょう。

私の所属する青年劇場では、来年9月に、劇作家の坂手洋二さんと「普天間（仮題）」を上演することとしました。今、日米共同軍事演習が、世界で最も危険な基地と言われる「普天間」でも行われています。基地のない沖縄を、という願いは、基地のない世界を作ることに向かうものです。

私の生まれ育った町代田に「九条の会」が作られたことは本当に嬉しいことです。民主主義を学んだのも代田小学校の先生方からであり、私も少なからず恩返しが出来ればと思っています。

福島 明夫（青年劇場 代田2丁目在住）

## 集会等の紹介

12月20日（月） ①午前10時 ②午後2時 ③午後7時 の3回上映（開場は30分前）

映画 「いのちの山河 日本の青空 II」 大澤 豊監督作品

会場 めぐろパーシモンホール大ホール（Tel 03-5701-2124）

（東急東横線・都立大学駅より徒歩7分 または

東急バス 渋34、都立01などで「めぐろ区民キャンパス」下車すぐ）

主催 目黒「いのちの山河」を見る会（Tel 03-5768-1514 西小山診療所内 米山さん）

（参加ご希望の方は、お近くの事務局員まで）

チケット：大人1200円（当日1500円）、中高生500円

## 日本国憲法

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。